

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 ふきのとう	代表者	新庄 祐士	法人・事業所の 特徴	小規模多機能型施設として柔軟な対応を心がけている。自然に囲まれた山家という地域の特性を活かしながら、ゆっくり穏やかな雰囲気の中でご利用者それぞれに合わせた支援が提供できるよう努めている。
事業所名	山家 小規模多機能型居宅介護施設 やまぶき	管理者	藤山 ゆかり		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	2	0	0	1	0	0	0	5

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A.事業所自己評価の確認	「約束は守る」「期限を守る」など当たり前のことを意識してやり遂げる。申し送り等を把握し対応する。ケアプランを把握しご利用者それぞれに適切なサポートを行う。朝礼、昼礼で確認したことは意識して取り組む。	申し送り把握や決まり事、意見などは意識できた。ケアプランは職員へ提示なくケアマネだけが知っている状態であり、把握が全くできていなかった。	自己評価項目の評価に各職員間での大きな違いがあるのが気になる。できていることも理解の相違で「できていない」との評価になるのも勿体ない。9項目の改善計画に具体性を持たせていくことで、課題解決にもつながると感じる。	毎月の会議にて改善計画の進捗状況の確認と評価を行い実践へと繋げる。その中で自己評価項目の理解度を高められるよう説明をする。
B.事業所のしつらえ・環境	運営推進委員の方々にも定期的に施設見学をしてもらい、第三者のアドバイスもいただきながら、これまで継続しているものを発展させられるようにする。ご利用者にとって過ごしやすい環境づくりに配慮する。	定期的な施設見学は初回の会議のみであった。	以前に一度しか施設内を拝見していないため評価しづらいが、窓も大きく開放感があり、職員さんとゲームをされていたり、掲示物を見ても楽しく過ごされていると感じる。	ご利用者や来客者、職員にとって快適かつクリーンな環境整備を行い、四季を感じられる居心地の良い空間を提供する。
C.事業所と地域のかかわり	やまぶきの広報誌の配布は継続する。広報誌をやまぶきからの提案や発信にも利用し地域とのかかわりを模索する。地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。	家族広報のみで地域広報は作られていない。家族広報を地域へ配布もしていない。	事業所については知られているが、日々の事やサービスの詳細等については知られていないと感じる。地域とのつながりを多方面でもてるといいと感じる。	地域・家族広報・SNSを通じて事業所のPRを行う。地域との繋がりを大切に行事への参加、参画をしていく。
D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の会議資料など職員に回覧し、内容の報告を行い周知を図る。山家のサークル活動の情報を得、ご利用者様の参加を模索する。	地域会議資料は回覧があっても説明がない為、把握しにくかった。サークル活動については全く情報を得られていない。	山家地区福祉推進協議会にも参加していただいている。施設から見た地域への意見等も聞けるといいと感じる。地域行事等への参加も期待している。	ご利用者が住み慣れた地域で生活ができるよう各関係機関とも協力し、地域参加の機会も作り支援していく。
E.運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の在り方を確認し、方向性を決めて取り組んでいく。運営推進会議でのやり取りを職員に報告し、やまぶき全体として取り組むことを検討できるようにする。	後半は会議を施設フロアで行い、出た意見を職員報告し一部ではあるが取り組む事が出来た。	運営状況をより詳しく報告してもらうことで、意見が出しやすく感じる。実際にこの場で出た意見がどのように生かされているのかも感じる。	運営状況や取り組みをより詳しく報告する。また、委員会で出た意見に対しての改善したケースについても報告する。地域支援での事例を報告相談できるケースについては報告する。□
F.事業所の防災・災害対策	避難訓練等委員にも周知して行う。消防署にも立ち会ってもらいアドバイスを受け、より確実な避難計画につなげる。地域の防災計画を確認し、やまぶきと地域の協力関係の構築を模索する。	消防立ち合は消火方法のアドバイスを受けた。地域防災計画の確認と推進メンバー参加は出来ていない。	避難訓練をされていることは知っているが参加したことがない。4月からは地域の要支援者の避難受け入れが始まるが、そういった面でも期待している。	様々な状況(火災・水害・地震等)を想定した訓練を実施し、運営推進委員の方々に避難訓練を視察していただく機会を設ける。□